

平成29年度全国学力状況調査結果 第6学年

	全国・大分を上回る得点
	全国のみを上回る得点
	全国・大分を下回る得点

△全国・大分県平均より上・▼全国・大分県平均より下

		本校正答率	全国		大分県	
			平均	本校差	平均	本校差
国語総合	A主として知識	75	74.8	△0.2	76	▼1
	B主として活用	59	57.5	△1.5	58	△1
国語A	領域別	本校正答率	平均	本校差	平均	本校差
	話す・聞く	52.2	69.2	▼17	69.6	▼17.4
	書く	58.7	60.6	▼1.9	62.1	▼3.4
	読む	72.5	70.2	△2.3	71.2	△1.3
	言語事項	81.4	78	△3.4	79.8	△1.6
国語B	領域別	本校正答率	平均	本校差	平均	本校差
	話す・聞く	71	64.9	△6.1	65	△6
	書く	60.9	53.4	△7.5	54.7	△6.2
	読む	42	49.2	▼7.2	49.7	▼7.7
	言語事項					

		本校正答率	全国		大分県	
			平均	本校差	平均	本校差
算数総合	A主として知識	76	78.6	▼2.6	81	▼5
	B主として活用	43	45.9	▼2.9	46	▼3
算数A	領域別	本校正答率	平均	本校差	平均	本校差
	数と計算	78.3	80.6	▼2.3	82.8	▼4.5
	量と測定	71.7	68.8	△2.9	70.1	△1.6
	図形	60.9	81.1	▼20.2	82.9	▼22
	数量関係	80.9	79.6	△1.3	81.6	▼0.7
算数B	領域別	本校正答率	平均	本校差	平均	本校差
	数と計算	53	52.8	△0.2	53.2	▼0.2
	量と測定	52.2	47	△5.2	44.5	△7.7
	図形	13	13.2	▼0.2	12.6	△0.4
	数量関係	35.9	40	▼4.1	40	▼4.1

全体的特徴

- 正答率において、国語はA(基礎)B(活用)とも全国平均を上回った。
- ・国語Aにおける領域別では、「読む」「言語事項」で2～3P全国を上回ったものの、「話す聞く」「書く」においては、大幅に全国を下回る正答率になっている。
 - ・反対に、国語Bにおける領域別では、「話す聞く」「書く」で全国を6～7P上回り、「読む」において正答率を下げている。
 - ・活用での力がありながら、基礎基本の「話す聞く」「書く」問題のどこにつまずきがあったのか、その分析をする必要がある。
- 正答率において、算数ABともに全国(大分県)平均を下回った。
- ・算数Aでは「数と計算」で2～4Pの得点減、「図形」領域においては20～22Pの得点源である。特に「図形」でのつまずきを早急に分析するとともに対策を講じる必要がある。
 - ・「量と測定」領域においては、A(基礎)B(活用)とも全国(大分)平均を上回ることができた。前学年における指導の徹底が定着に結びついている。その指導の仕方について分析しておく必要がある。